



要注意

黒星病の秋型病斑が非常に多いです！

黒星病の秋季防除は、少なくとも2回以上、実施できましたか？
現在、管内の各産地で、黒星病の秋型病斑が多数確認されています。
せっかく秋季防除（薬剤散布）を実施しても、秋型病斑の形成された落葉をそのまま放置してしまうと、来年の春に、非常に多くの伝染源を持ち越してしまうこととなります。

1 黒星病の秋型病斑を確認してください！

秋型病斑の多いほ場では、特に豊水の葉を確認すると、写真1のような病斑が確認できます（薄く墨を広げたような病斑）。

秋型病斑は、治療することは困難です。
葉が枯れてもそこで越冬し、来年の3月下旬から4月上旬頃に、黒星病の原因となる胞子をまき散らし始めます。

5月いっぱいには、降雨のたびに地表（落葉）から胞子が飛び続けるため、黒星病発生のリスクが非常に高くなります。

また、黒星病というと、果実感染の多い幸水に目が行きがちですが、豊水も葉感染はしやすく、特に混植園では、豊水でどんどん黒星病菌が増え、園内の菌密度が年々高まっている可能性があります。



写真1 葉上の黒星病秋型病斑

2 必ず、落葉処理を行ってください！

秋型病斑の形成された落葉は、①熊手やエンジンプロアで集めてほ場の外に持ち出すか、②うない込んで土に埋め、胞子を飛ばせないようにする、しかありません。

①が最も確実です。整枝・剪定も重要ですが、高品質安定生産を実現するためには、落葉処理は避けて通れない作業になっています。

どうしても、①の実施が難しい場合は、最低でも②は実施するようにしましょう。その際には、株元付近の極端な深耕等、樹勢低下を招くことのないよう注意します。

また、株元やほ場外周部の落葉も、忘れずに処理しましょう。